



# 水戸徳川家を貫くもの



水戸徳川家第15第当主  
公益財団法人 徳川ミュージアム 理事長

とく がわ なり まさ  
**徳川 斉正氏**

本稿は、平成27年8月22日に、つくば市で開催された筑波ふれあい倶楽部特別講演会の要旨を事務局にて取りまとめたものです。

内容につきましては、徳川氏の了承を得ております。

## ●講師プロフィール

昭和33年	3月	29日生まれ
昭和55年	3月	慶応義塾大学商学部卒業
	4月	東京海上火災保険株式会社 入社
昭和61年	6月	財団法人 水府明徳会 評議員
	8月	財団法人 水府明徳会 会長理事 法人移行に伴い平成23年4月1日 より、公益財団法人 徳川ミュージアム理事長に変更
	8月	大能林業有限会社 代表取締役
平成10年	5月	財団法人 福澤記念育林会 評議員
平成13年	4月	財団法人 三徳庵 理事 平成24年4月1日より、公益財団法人 三徳庵に法人名変更
	5月	財団法人 徳川黎明会 理事 平成23年4月1日より、公益財団法人 徳川黎明会に法人名変更
平成15年	5月	財団法人 山階鳥類研究所 理事
平成22年	1月	東京海上日動ビジネスサポート株式会社 取締役
平成23年	7月	東京海上日動火災保険株式会社 理事 総務部長
平成24年	4月	公益財団法人 山階鳥類研究所 評議員
平成25年	6月	東京海上日動火災保険株式会社 執行役員 総務部長
平成27年	6月	警視庁丸の内警察署協議会 委員



## ■水戸徳川家のはじまり

江戸幕府は、慶長5(1600)年、徳川家康公が関ヶ原の戦いで大勝し、15世紀後半から続いた戦国時代に終止符を打たれたことにはじまります。

その後、慶長8(1603)年、家康公は、後陽成天皇から、新幕府の初代征夷大將軍を任せられます。そして、17世紀初頭から19世紀後半まで、264年にわたって繁栄した江戸幕府の礎を築きました。

戦乱の世を終わらせた家康公は、日本国家に平安を広げられるために、また、ご子息の自立を促されるために、九男の義直公、十男の頼宣公、十一男の頼房公、幼い3人のご子息を呼び出されました。そして、各々自分が欲しいものを正直に申すよう伝えました。

すると、九男の義直公は「美しいもの」を、十男の頼宣公は「広い領地」を、そして、当時6歳であった十一男の頼房公は「天下」を頂きたい、とお答えになりました。

息子たちのそれぞれの願いを聞かれた家康公は、ご自身が持つ莫大な財産の一部を息子たちの要望に合わせて分け与えられました。

義直公に対しては、50万石と高価な品物、そ

して尾張の地（尾張藩）をお渡しになりました。また、頼宣公には、同じく50万石と広い紀州の地（紀州藩）をお与えになりました。

そして、後に水戸藩の初代藩主となられる末っ子の頼房公には、25万石と常陸國ひたちのくにの北部領地をお与えになりました。これが水戸徳川家のはじまりです。

なぜ、家康公は、頼房公に対して、他の2人に比べて少ない領地をお与えになられたのでしょうか。それは、家康公が「“やんちゃ”な頼房公に寝首を掻かれては困る」と思われ、ご自分の膝下に置こうと考えられたからでした。

これら3つの藩は、徳川将軍家に継ぐ地位を持っているとして、徳川御三家と呼ばれています。

### ■水戸藩初代藩主 頼房公

水戸藩初代藩主となられた頼房公は、駿河城で養育されました。そして、家康公の没後、第2代将軍に就かれた秀忠公ひでただから、江戸に屋敷を与えられ、その地で幼少期を過ごされました。

頼房公は、江戸の生活で、宮中に仕える女官たちから、朝廷の話をたくさん耳にされていたそうです。その結果、天皇への尊敬が大変篤くなりました。それは、頼房公が9、20、32歳と、3度も京都に足を運ばれたことからもうかがい知ることができます。



講演風景

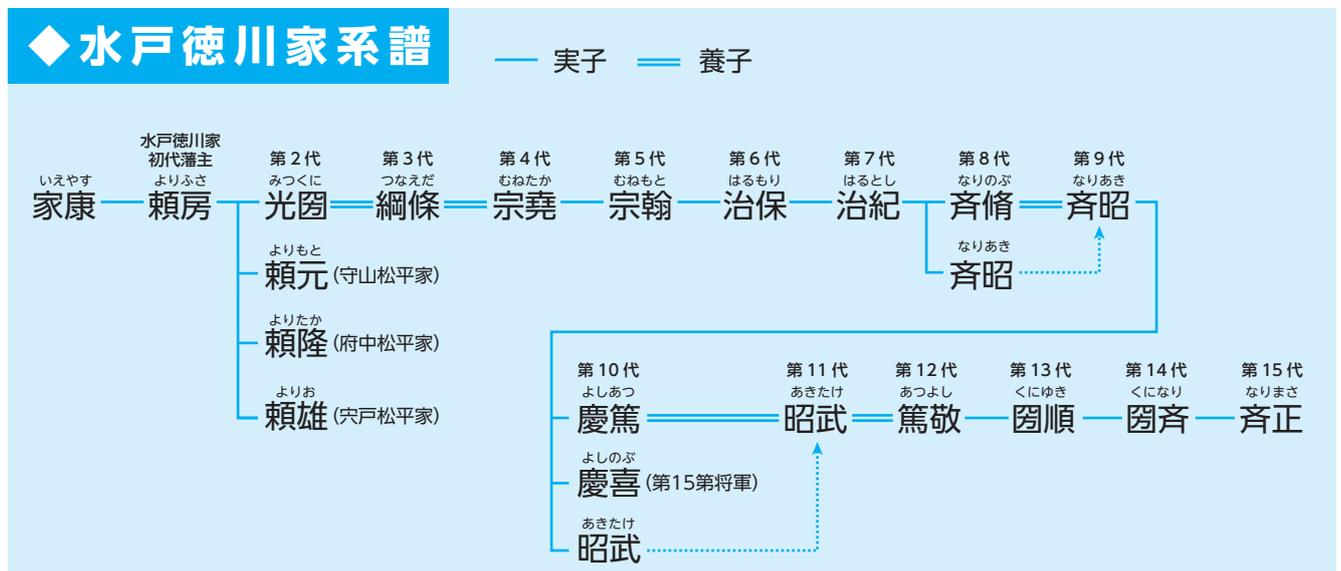
頼房公のこうした姿勢は、後に、水戸藩第2代藩主となられる光圀公みつくににも引き継がれていきました。

また、頼房公は水戸藩の初代藩主として、53年間にわたり領地を治められました。その間、領内総検地、水利整備、城郭整備、町整備、職制の確立等を実施され、水戸藩の礎を築かれたのでした。

### ■水戸藩第2代藩主 光圀公と「大日本史」編纂

寛永5(1628)年、頼房公の三男としてご誕生された光圀公は、水戸藩第2代藩主に就かれました。

なぜ、頼房公のご長男である頼重公ではなく、三男の光圀公が藩主を継がれたのでしょうか。



それは、頼重公が、尾張藩と紀州藩のご長男よりも先にお生まれになり、序列を正すために公家に養子として出されたため、三男である光圀公が藩主とされたのでした。

光圀公は兄を想い、お世継ぎはもうけられず、頼重公のご息子である綱條公を、次の第3代藩主にされました。

当時は、その時代を治める将軍の名から一部を受け継ぐ習わしがありました。光圀公の「光」の字は、光圀公が元服した際に将軍であった家光公いえみつに由来しています。同じように尾張藩は光友公、紀州藩は光貞公となっています。このように、それぞれのお名前から、当時の将軍を判断することができます。

光圀公は、日本全国を旅したといわれていますが、実際は、北は日光なごそ、勿来、南は木更津、鎌倉等の関東地域を周遊されました。これが逸話となり、「水戸黄門漫遊記」となりました。また、鎌倉の魅力を伝える旅行書を最初に作られたのは、光圀公であるといわれています。

18歳まで暴れん坊であった光圀公は、自身の代で水戸藩が終わってしまうのではないかと危機感を覚えられていたそうです。しかし、ある時、1冊の本との出会いで、光圀公に変化が訪れました。その本とは、中国の歴史書である司馬遷の『史記』でした。

この本を読み、過去の歴史や過ちを後世に残すことの大切さに気づかれた光圀公は、それま

での素行を改められ、日本の史書編纂をはじめられました。後に、光圀公のあとを継がれた第3代藩主の綱條公は、この史書を「大日本史」と命名されました。

この「大日本史」の序文には、「善は以て法と為すべく、悪は以て戒と為すべし、而して乱賊の徒をして懼るる所を知らしめ、將に以て世教に裨益し綱常を維持せんとす」と記されています。

これは、「歴史を振り返ることは、物事の善悪や行動の指針になる」という意味です。光圀公は、元禄4（1691）年に、自らが始められた「大日本史」編纂事業に生涯を捧げるべく、西山荘に移り棲まれました。そして、亡くなるまで、編纂の傍ら多くの領民と親交を重ねられました。

そして、明治以降も「大日本史」編纂事業は、水戸徳川家の事業として継続され、明治39（1906）年に、250年の歳月を経て完成し、第13代國順公くにゆきにより、明治天皇へ献上されました。

## ■水戸藩第9代藩主 斉昭公と水戸学

第9代藩主とされた斉昭公は、「一張一弛いっちょういっし」という思想を胸に、積極的に藩政の改革に乗り出されました。この思想は、「時には厳格に、時には寛容に生きるべき」という儒学の教えが背景にあります。

斉昭公は、当時としては大変珍しく開かれた精神をお持ちで、学問に励む場所として弘道館、そして、みんなで楽しむ場所として偕楽園を建設されました。

弘道館では「水戸学」が発展し、その思想を学んだ吉田松陰や西郷隆盛等、多くの幕末の志士たちに影響を与え、明治維新の原動力になったといわれています。また斉昭公自身も、天文学や航海術、モールス信号等を学ばれました。

また、日本三大名園の1つに数えられる偕楽園は、現在も入場無料となっています。これは、領民の心と体を癒す場所としたい、という斉昭公の意向が今でも受継がれているからです。



講演風景

現在と違う点は、男女が一緒に入園することが禁じられていたことです。公園は頭を冷やすところであり、熱を上げるところではないというのが齊昭公のお考えでした。

## 江戸幕府第15代将軍 よしのぶ 慶喜公の決意

第14代将軍 いえもち 家茂公が急死し、慶応2（1867）年12月に、慶喜公が江戸幕府の第15代将軍に就かれました。

慶喜公は齊昭公の七男です。幼少期は、水戸の弘道館で、会沢正志齋等から学問や武術を学ばれました。

後の大政奉還時に、慶喜公が演説されたお言葉から、将軍の地位に就かれた時点で、幕府を閉じる決心をされていたことが分かります。

「かかる次第にて、予が政権奉還の志を有せしは実にこの頃よりの事にて、東照公（家康公）は日本国のために幕府を開きて将軍職に就かれたるが、予は日本国のために幕府を葬るの任に当るべしと覚悟を定めたるなり」

慶応3（1867）年10月、慶喜公が大政奉還したことにより、源頼朝以来、700年間続いてきた武家政権は幕を閉じました。

## 水戸徳川家を貫くもの

私は、昭和33年の生まれです。慶喜公は、私の曾祖父にあたります。昭和55年に慶応義塾大学を卒業後、東京海上火災保険株式会社に入社しました。入社当初の配属先である丸の内の本社で3年間勤務した後、茨城支店に異動しました。

私が27歳で結婚した年、第14代当主であった父が亡くなり、私は、水戸徳川家の第15代当主を引き継ぐことになりました。

今年は、家康公が薨去されて400年目の年であり、「徳川家康公顕彰四百年記念事業」が行われています。私は、水戸徳川家の当主として、この事業の1つ、静岡県の くのおうざん 久能山東照宮で行われた「御鎮座四百年大祭」に副司祭として参列いたし

ました。

同事業は、家康公が礎を築いた江戸時代が、世界史上例をみない平和国家であり、文化の成熟期であったことを再考し、その知恵を未来の日本、そして、世界へ発信することを目的としています。私はこの時代に当主を仰せつかったことで、このような事業に携わることができ、大変嬉しく感じております。

これからも、私は水戸徳川家の第15代当主として、筑波銀行や地域の皆様とともに、地域の魅力向上に向け、歴代の藩主や当主が守り伝えてこられた歴史や文化の継承に、より一層力を注いでいきたいと考えております。

また、私が理事長を務める徳川ミュージアムでは、水戸徳川家の歴史とそれに関する詳細な史料等を多数所蔵しておりますので、ぜひお越し頂ければ幸いです。

## 徳川ミュージアム

### 住所

茨城県水戸市見川 1-1215-1

### アクセス

#### ◆電車

- JR常磐線 水戸駅（北口）から
- ・タクシーで約10分
- ・バス4番のりば 茨城交通バス3または37系統「見川2丁目」下車、徒歩5分

#### ◆車

- ・常磐自動車道 水戸ICから約20分
- ・無料駐車場あり



文責／筑波総研株式会社 研究員 富山 かなえ